

社会倫理の諸問題（3）

Overview

- ・ 社会的実践の根拠としての隣人愛
 - ・ 人種・民族差別
 - ・ 身体的差異による差別
 - ・ 性差別
- ・ 諸教派・諸宗教の共存
 - ・ まとめ

諸教派・諸宗教の共存

教派の違いによる差別・争い

- 教派（denomination）とは何か
- カトリックと正教会とプロテスタントの違い
 - 東西教会の分裂（1054年）、宗教改革（1517年）
- プロテスタントの中の諸教派の違い

キリスト教世界の多様性

西方キリスト教世界

ローマ・カトリック教会
↓
英国国教会（聖公会）
プロテスタント教会
ルター派（ルーテル）教会
改革派教会・長老派教会
会衆派教会
バプテスト教会
メソジスト教会、等々

東方キリスト教世界

東方正教会
コンスタンティノーブル総
主教庁
アレクサンドリア総主教庁
エルサレム総主教庁
ロシア正教会
セルビア正教会
ルーマニア正教会
ギリシャ正教会
日本正教会、等々

教派の対立を越えて—エキュメニカル運動

- エキュメニカル運動（教派一致運動）
- 1910年のエジンバラ世界宣教会議が起源。
- 世界教会協議会（World Council of Churches）
- 1948年、オランダのアムステルダムで発足。
- ヨーロッパと北米を中心とする147の加盟教団から始まったが、今では、110以上の国から348の教団が加盟している。
- 東方正教会は設立当初からのメンバーであるが、ローマ・カトリック教会は加盟していない。ただし、カトリックは様々な会議でオブザーバーとして参加し、共同の作業に加わっている。



宗教が関係している紛争の例

- ボスニア（カトリック、セルビア正教会、イスラーム）
- インド（ヒンドゥー、イスラーム、キリスト教）
- インドネシア（イスラーム、キリスト教）
- タイ（仏教、イスラーム）
- 中東（イスラーム、ユダヤ教、キリスト教）
- 北アイルランド（プロテスタント、カトリック）
- スーダン、南スーダン（2011年に独立）（イスラーム、キリスト教）
- 米・同時多発テロ（イスラーム、西洋世界）
- 中国（共産党、チベット仏教、ウイグル自治区イスラーム）

「宗教紛争」に対する注意

- 宗教の対立が紛争の直接の「原因」となっていることはまれ。
- 紛争の原因は複合的。
 - 「宗教紛争」という表現は、しばしば問題を単純化しすぎる。
- しかし、いったん始まった紛争において宗教が関与し、それが「要素」となって紛争が長引いたり、複雑化したりすることはある。

一神教相互の対立と抗争の歴史

- キリスト教世界の中のユダヤ教
 - 反ユダヤ主義（anti-Semitism）
- キリスト教とイスラーム
 - レコンキスタ：718年-1492年に行われたキリスト教国によるイベリア半島の再征服。
 - 十字軍：11世紀末から13世紀にかけて、聖地エルサレムをイスラム教徒から奪回するため、前後8回にわたり行われた西欧キリスト教徒による遠征。

置換主義（supersessionism）

- "supersessionism"は、ラテン語 "supersedere" (=to sit upon) に由来する。
- キリスト教が「新しいイスラエル」としてユダヤ教に取って代わるという考え方。ヨハネ文書や「ヘブライ人への手紙」に、この傾向性が強く見られる。
- （ヘブライ語）「聖書」は「旧約聖書」とされ、「新約聖書」が「旧約聖書」に取って代わる。
- ユダヤ人の強制改宗や反ユダヤ主義の原因の一つとして「置換主義」を考えることができる。



一神教研究の必要性

- ユダヤ教・キリスト教・イスラーム
 - アブラハムを信仰の父とする伝統と歴史を共有する兄弟宗教。
 - 「近さ」ゆえの対立（近親憎悪）
 - 欧米、中東では一神教同士の対等な対話は困難を伴う。
 - 同志社大学 一神教学際研究センター（CISMOR）の設立（2003年）
→ <http://www.cismor.jp>



宗教間対話の課題

- 他者の宗教的感情の尊重。
- 諸宗教の共存可能条件の形成。
- 各宗教内における保守派（原理主義者）とリベラル派の対話。
- 宗教的価値と世俗的価値（啓蒙主義的価値：人権、表現の自由など）の対立の抑制。
- アイデンティティの多様性の認識（宗教はその一つに過ぎない）。
- [参考] 宗教倫理学会の設立（2000年）、京都・宗教系大学院連合（K-GURS）の設立（2005年）

ま と め

他者性の認識——隣人愛の応用

- 「隣人を自分のように愛しなさい。」
（マルコ12:31他）
- 他者の「他者性」をどのように認識するのか。
- 絶対他者としての神（他者性の起源）
- 他者認識を欠く者は、他者を従属・同化させようとする。

二種類の愛（→ 生命倫理）の応用

- 「変える愛」
予測・制御に基づく。遺伝学的選択、教育
- 「受け入れる愛」
偶然の受容。「授かりもの」としての命
- ルーティンな日常の先
「倜儻不羈^{てきとうふき}」な人物、「触れる」こと。

西欧神学（「普遍性」）の相対化

- 一つの文化 → 西欧文化
- 一つの人種 → 白人
- 一つの性 → 男性
- 一つの階級 → 支配階級
- 一つの宗教 → キリスト教

神学とコンテキストの関係

- 誰が
 - どこで
 - 何のために
 - どのような
- 神学を必要とするのか？

経験的規範による聖書解釈

- 経験に即して、それぞれの聖書テキストに価値の重みを分配することは、解釈上、必要である。
- しかし、自分の立場を「正当化」するために聖書を利用（悪用）することに対しては、批判的な視点を持たなければならない。

グローバル・エシックスの土台 としての宗教間対話・教育

- キリスト教の中だけで、あるいは、キリスト教の力だけで、社会倫理にかかわる現代的課題を解決することはできない。
- 異なる信仰・価値観を持つ人々が平和で安定した生活を送るためには、他の宗教への理解や、それらとの対話・協力を欠くことができない。